

今年度の努力目標

学習と研究に直結する図書館

1. 閲覧室を整備する。

辞書・基本図書の書架を設ける。雑誌架を充実する。環境を整える。

2. 必読書目を選定する。

各学年生の実態を明らかにする。又、全教官の推薦を求める。年度末に輪郭を描いてみる。

3. 学生委員の活動を促す。

活動分野を広げる。自主的な計画と実行とを求める。

附 ヒブリアの発行計画

- 学年初号外 ○第43号-6月 ○第44号-10月
- 第45号-12月 ○第46号-2月

❖ 巻頭言 ❖

この一冊の本

「アニリン」(科学小説)

副館長 工業化学科 小 磯 武 文

私は工業化学科の5年生に「有機化学」の講義をしているが、毎年のはじめにこの小説を種本にして話すことにしている。私がこの本を読んだのは戦争中だったかと思う。今でも黄色くなったワラ紙に印刷された、その頃の本が私の書棚にある。訳者がこの「アニリン」を日本語に移したのは1942年(昭和17年)とのことであるから、私の青春時代でもあったのである。多感な私の心を限らないカラーの魅力のとりこにしてしまったのもこの小説が一役買っているのではないかと今にして思われるのである。

内容は 第1部 インジゴ
第2部 燈用ガス

- 第3部 コールタール
- 第4部 アニリン
- 第5部 ベンゾール
- 第6部 人造インジゴ
- 第7部 アテブリン

からなっているが各部それぞれが一編の小説となっており、しかも全体に関係しているところがあるという……いわゆるオムニバス(omnibus)小説という形式をとっている。

天然染料の藍の栽培から物語りははじまる。広大なインドの沃野で栽培場の監督をやっているイギリスの青年と青い月の輝きの眼をもった美しい土地の娘との

悲しい恋の結末——それを背景としたイギリスの植民地での搾取ぶりが読者の心に強く訴えてくる。この藍の成分こそが、あと（第5部）で出てくるインジゴなのだ。その頃燈用ガスが石炭から製造され街やカフェを明るく照らし、人間は文明の素晴らしさに驚かされたのであるが、一方では石炭乾溜の副生物であるコールタールの始末には困り果てていたのである。このコールタールにとりつかれたのが、一生をその成分の研究に捧げたルンゲであった。ルンゲのひたむきな姿を著者は美しくロマンチックに描いて読む人を深い感銘に陥れる。有機化学を学んだ人は教科書か、実験室で「リービヒの冷却器」というのを見たり聞いたりしているだろう。このリービヒ（当時の有機化学の大家）の高弟にホーフマンという秀才がいたが、このホーフマンが英国のロイヤル研究所の所長に招かれて当時遅れていた英国に有機化学の花を咲かせたのである。合成染料第1号「モーブ」を発明したのは、彼の弟子である18才になったばかりのパーキンであった。話はよいことづくめではなかった。ホーフマンの無二の親友マンスフィールドは、ケクレの提示したベンゾールの六角形の構造に魅せられ、実験台の下で夢中になって考察しているうちにベンゾールが溢れ大火傷を負った。

医師が麻酔薬を持って来た。がマンスフィールドは断った。「もう二、三時間だ……僕に考えさせて下さい」意志が苦痛に抗うこの驚くべき闘争をホーフマンは舌を巻きつつ凝視した。マンスフィールドの言葉が彼の心中に炎々と燃えさかり始めた。突如、マンスフィールドは身を起こした。ホーフマンは彼の身体を支えようと努めた。傷ついた人は、夢みるような眼を大きく見開き、虚空の方を眺めた。「ベンゾールとは何だ？」彼は口ごもった。やがて、彼は力なく、くずれ折れた。「ベンゾール……とは……何だ？」溜息を一つ。それきり、彼の呼吸は絶えた。

『アニリン』 科学小説 1978年（新装版第3刷） 法政大学出版局 ￥1,500
K.A. シェンチンガー（藤田五郎訳）

読書と私 —本で綴る半生の記—

わが家の本棚に「日本文学全集」があるのを初めて知ったのは小学3年生の頃であったろうか。そのうちの何冊かは日本少年少女文学編となっていた。子供向けの代表作が収められていたのであろう。芥川龍之介の「蜘蛛の糸」のような話もあったように思うが確か

この辺は事実であったかどうか……多分に小説的だと思うのだが……。ドイツの多くの化学者がそれぞれの一生を捧げて築き上げた有機化学を工業の形に仕上げたのはI.G.染料会社であった。そこで製造されたものは染料ばかりではなかった。マラリヤや化膿菌を制圧する薬もあった。「アテブリン」もその一つであった。この薬を使用してインドのジャングルの中で幾多の熱病患者を救った青年医師ホルンとその妻ヘルタの悲愴な活躍ぶりと心暖まる夫婦愛とは読む人の心にいつまでも、いつまでも残るに違いない。

最後に訳者のあとがきの一節を述べて筆を擱こう。

『アニリン』は第二次大戦前から戦後にかけて、ベストセラーであるのみならず、ロングセラーでもある。その秘密は詩人であるとともに自然科学者でもある著者が、豊富な科学知識を美事な文学作品の形に織りこみ、文芸と科学が一体となったきわめて異色のある文学を、読者の前に提示したことにはひそむのであろう。戦後また爆発的に読まれたのは日本と同じように不幸な敗戦を経験したドイツ国民に、先人の業績に対する誇りと、あらゆる苦難を乗り越えて進む自信を吹きこむ力が、この作品の到るところにみなぎっているためだと思われる。ドイツ人はアメリカの宇宙開発も、ソ連の同じ努力も、根源はドイツにあると信じており、両国の宇宙船が軌道上で出会えば「グーデン・ターク」といってあいさつを交すのだ、とユーモラスな表現をしている。

原著者カール・アーロイス・シェンチンガーは1886年南独バイエルンに生まれ、医師として活動しながら文学と科学のあやなす幾つかの特異な作品を発表して独特な地歩を文壇に占めた。『アニリン』は1936年の作であるが、たちまちベストセラーとなったばかりでなく、ラジオ・ドラマとしても多大の反響をよんだ。

委員 電気工学科 山崎数彦

ではない。しかし「露の葉の下の神様」という民話があったことだけは不思議と思い出せる。この少年少女文学編の内容は幼い私にも容易に理解でき、雨天のため屋外で遊べない時など縁側に持ち出しては何度か読んだように思う。ある日、少年少女編を読み終えて本

編に眼を向けた。何かを期待しつつ一冊を取出し、表紙をあけて目次を見た。「坊ちゃん」、「我輩は猫である」とあるではないか。これは面白そうだと読み始めたが…その内容たるや、当然のことながら「トンと見当がつかなかった」のであった。

ほどなく戦争が始まり、疎開、終戦、そして戦後の混乱期と時が過ぎてゆくうちに、この「日本文学全集」とも別れ別れとなり、まとめて読む機会はなかった。

もう一つわが家にあったものにH.G. ウェルズの「世界文化史大系」(全4巻?)がある。これは中学・高校生の頃に目に入ったので繰返し見た(写真が比較的豊富に入っていたので)記憶がある。

中学1年生の年に終戦となり、母の実家に引き上げ?たあとの1~2年間は学校で使う教科書も上級生のお下りを使うような有様だったが、幸い実家の物置きに2階にそれなりの書物があったのでこれらを読んで過ごした。しかし、はたしてどんなものがあったのか「全く記憶にございません。」のである。

高校では庭球部に籍を置き相当熱心に力を入れたので、読書は余りしなかったように思う。それでも、当時まだ家にはラジオがなかったので、自作しようと思いつきNHK出版の「ラジオ技術教科書」を買ひ、並行して月刊紙「ラジオ技術」を購読し勉強した。丁度その頃、月刊雑誌も多くなり始めたのでないだろうか。英語のマメテストの成績がよかったので、先生から“English Students”といった月刊雑誌をほうびに貰ひ、そんな英語学習誌の存在を知った時期でもあった。

高校から大学に進んだ頃は、村上元三の「源義経」や石坂洋次郎の小説が新聞に連載され、新聞が毎日配達されてくるのが楽しみでもあった。又、何がきっかけか明確ではないが、「三太郎の日記」であるとか、倉田百三の著作であるとか、あるいはバーナードショウの本だとかといったものを結構に読んだように思う。

めでたく大学を卒業してからは高度成長の波に乗り、テレビの開局に従事したり、カラーテレビ産業の成長

期にテレビ受像機の開発に従事したりで、残業の多い十数年間を過ごすことになった。この間、業務上の新しい知識の吸収は勿論一日も欠かせず、「水平思考」の時代を経験したり、「独創的な思考の技術」を学んだりした。上司の一人の推奨で、後藤清一著「叱り叱られるの記」も読みました。「叱り叱られることの本当の大切さ」が一職工から三洋電機社長に育て上げられた著者の、実地の体験として記された自叙伝である。過保護時代と言われる昨今、一読してよい書物ではないだろうか。

こんな風に世の動きにつれて読む本の内容も変わって来たが、仕事以外の本も連休(夏休みや正月休みなど)や出張の電車の中などを活用して読んだ。私の図書選定方法と記憶に残っているものの主な著者を挙げてみよう。

- (1) 何かの賞を受賞したものを選ぶ。例えば菊地寛賞受賞の司馬遼太郎著「関ヶ原」(上・中・下巻)、大宅壮一ノンフィクション賞受賞の深田祐介著「新西洋事情」など(賞を受賞するだけあって大変引きつけられた。)
- (2) テレビの番組をみてその原作をみる。吉川英治「新平家物語」(12巻)、山本周五郎「樫の木は残った」…原作とテレビ番組(演出)との相違などを合わせ考えるたのしみがある。
- (3) 知人のすすめ、広告などを見て。例、新田次郎「孤高の人」「アラスカ物語」「八甲田山死の彷徨」など(「八甲田山」は組織体における命令系統のあり方、事前調査の重要性が浮き彫りされている。)

なおこれら文芸書については同一著者の著書を何点か続けて読む傾向(「新平家」に続いて「親鸞」(3巻))などがあるのが一つの特徴であろうか。

以上、まとまりのない文章となりましたが、今までの私なりの「読書と私」をふりかえってみました。

学 ぶ 姿 勢

— 一 館 員 の 感 想 —

図書係長 加 藤 勇

新入生の諸君は希望に胸をふくらませて、新たな学校生活のスタートを切り、新学期を迎えた上級生の君たちも、新たな目標に向かって、前進を開始したことだろう。そこで一図書館員から日頃感じていることを一寸述べてみたい。

ホワイトヘッドと云う哲学者は次のようなことを云っています。「君が学んだことは、教科書を失くし、講義のノートを焼き、試験目当てに暗記したくだらめことを忘れ去った後で、はじめて役に立つ。」

確かに学んだ知識は、時々引っ張り出して使ってや

らないと、どんどん忘れられていきます。実用的でない知識は、試験が終われば大体用済みです。この哲学者は、何が役に立つと考えたのだろうか。その一つは、学習の姿勢ではないかと思います。つまり、授業は、先生から知識を分けてもらうためではなく、知識の受け渡しを通して、いかに学ぶかを教わるのだと思います。たとえば自転車に乗るのも、泳ぐのも、はじめは誰だってうまく出来ないが、練習を積み重ねると無意識のうちに体が目的にそって動くようになります。学ぶという精神運動も、訓練によって身につくものだろうと思うのです。卒業して社会に出ると、今まで習わなかった多くの事にぶつかります。「学校では教えてくれなかった」などという言う訳は通らないと思います。そこで独り学ばなければならぬ事になるでしょう。勉強は決して楽しいものとは云えませんが、その努力をしない人は、不本意な人生を送ることになるものです。学ぶことが身についている人は、机に座ることがなくとも、書物やテレビ・新聞・人の話などあらゆる情報の中から、役に立つような部分を意

識しなくとも利用して行けるものです。

さて学ぶ上で欠くことのできないこととしては、人間関係が大切であろうと思います。読書が人間の心を飛躍させるといいますが、その心が波動となって他の心に共鳴しなければ、その輝きも半減してしまうでしょう。又、とかく人間は一人で居ると、情性や我見に陥りがちです。学校は勉強する場所であるのにとどまらず、啓発しあう人間関係を築く機会を、君たちに提供していると云えるのではないだろうか。……………

目には見えないけれども人生において最も大切なもの——つまり心の豊かさを養うことが、古来、読書の第一義とされて来ました。その真実は現代でも生きています。良書に親しみ義務的な知識の充足の領域を超えて、人生を豊かにして行こうとする意欲をもってこそ自己を築き、更に人々の模範となり、魅力ある人間性を培う源泉となることを確信して、図書館に親しみ、大いに図書館を利用して、勉学に励んでいただきたい。

私の読書観

—乱読の中からも—

学生図書委員長 4 E 菊 地 稔

昨年に引き継ぎ、今年もまた、図書委員としてビブリアに文を載せるはめになった。

昨年中は、各学級の図書委員の手助けにより、ほとんどの人が帯出票を作っただろうと思う。また、再三にわたり「図書館を大いに利用してはどうか。」というビブリアへの投稿もあったことなので、利用率も徐々に向上しているのではないだろうか。そこで、今回はそのような内容はやめて、ふつつかではあるが、僕の読書観というものを書いてみたいと思う。

僕の読書は、どちらかと言えば乱読という部類に入るのではないか。腰を落ちつけて、じっくり一つ一つの語句の意味を考えて読むでもなし、また、特に決った著者の本を読むでもなし、そして、本の傾向もまた決っていない。書店で興味の注がれる本を見つけては買い込み、読むのである。「目的もなしに、興味本位で読むのでは、何も得るものはない。」と言う人がいる。はたして、本当だろうか。僕はそうは思わない。なぜならば、本はそれ自体が著者の分身であり、それを読むことによって、目に見えない、自分でも気付かないような点で、その著者の影響が及ぼされているだろう

から。一冊の本を読むことで、ほんの少しでもそこから得るものがあれば、たとえそれが乱読であったとしても、精神の成長が見られるであろう。ある程度学問を成就した人ならば、分野を定めて読書し、それを伸ばして行くこともできようが、まだまだ未熟な我々には、はなはだ無理がある。今のうちは、乱読で読書になれば、様々な内容を摂取しておきたいと思うのである。それによって、自分の人生の道が見えてくるのではないだろうか。

あらずしも、主人公名も皆忘れてしまった本もない。それでも深い感銘を受けたことだけは、今もって覚えている。例えば、渡辺淳一著「花埋み」、深沢七郎著「人間滅亡の唄」、三浦綾子著「塩狩峠」、高村光太郎著「智恵子抄」などである。

「人間滅亡の唄」はエッセイ集である。この本を読んだ時に、大きなショックを受けたことを覚えている。まずは発想法の相違である。どのようにすれば、この著者のような発想ができるのであろうか。「塩狩峠」はもう、ほとんどの人が読み終えた本ではないだろうか。そして、おそらく、この文と同じ号に載せられる

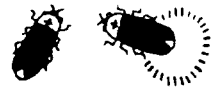
であろう、4年生の「友人に勧める本」という特集の中で、多くの人がこの本を挙げているのではないだろうか。キリスト教徒の主人公が、自分の身体を犠牲にして、暴走する列車を止める、という内容なのであるが、終りの部分での、彼の婚約者である女性の描写には、言葉に言い表せないものがある。まだ読んでことのない人は、一度読んでみてはどうだろうか。

なんとしても、かつて読んだ本の感想ということになってしまう。が、もうしばらく御辛抱を。現在、「橋のない川」という小説を読んでいる。住井すゑという方の書いたものだが、全6巻、文庫本で合計2,800ページに及ぶ長編である。級友の1人が、皆読んだことがあり、感動したということなので、読み始めたものである。

明治から大正・昭和にかけての話である。和歌山の坂田という村の部落、小森に生まれ育った誠太郎・孝二という兄弟が出てくる。彼らは、学校で「ドエッタ、

ドエッタ」と言われる。兄の誠太郎は、すぐにけんかをするのだが、教師も彼がエタだというので差別する。彼らは、なぜ自分たちはエタなのだろう。どうすればエタが直るのであろうと苦悩するのである。僕の想像していた以上の差別が小説の中で描かれている。今でもこのような差別が行なわれているところがあるのであろうか。もしあるとしても、昔ほどひどくはないであろう。

乱読という、まとまりのない読書であろうが、棚の本を増すために、時間のゆるす限り、本を読み続けたいと、僕は思う。なぜなら、自分自身の経験を少しでも多くし、早く成長したいと思うからである。

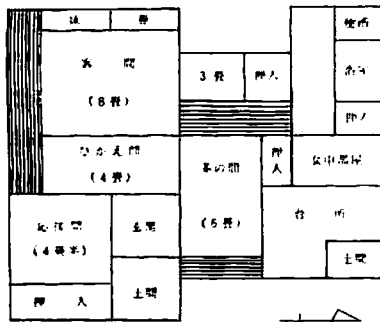


続・「こころ」——その小さな論考

4 M 永山 義勝・佐藤 和宏

去年の3月頃、夏目漱石の小説「こころ」の舞台となった家について考えてみたが、今ここで改めて考え直してみようと思う。本当に矛盾している点があるのだろうか。

まず、大正初期の住宅について調べてみよう。(図1)。この当時の住宅の特長は、



1. 茶ノ間はほとんど南向き。
2. 客間が最も広く良い位置で、庭園が見渡せる。時として主人の書斎・居間となる。

3. 女中部屋があれば必ず中廊下がある。

このことを頭に入れて、小説中に表現されている部分を抜き出してみる。

私の部屋…家中で一番良い部屋。8畳。床の横に欄。縁が南向き。縁の反対側に一間の押入。窓がない。

Kの部屋…控え間。私の部屋へ続く。4畳。玄関から私の部屋へ行くには必ず通らなければ

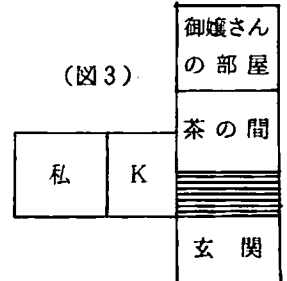
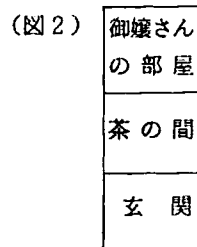
ならない。私の部屋の西側にある。

御嬢さんの部屋…かぎの手に曲ったの部屋、茶の間と続いた6畳。

◦ 玄関から真直行けば、茶ノ間・御嬢さんの部屋・それを左へ折れるとKの室・私の室。

私の部屋・Kの部屋の描写と図1を比べてみれば、その描写が図1と合致するのがよくわかる。従ってこれらの部屋に関して何ら問題もない。問題はこれらの部屋がどのように配置されているかである。

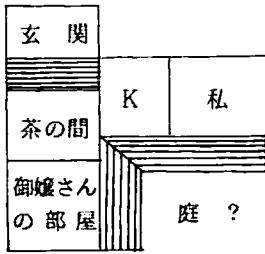
まず、茶の間と御嬢さんの部屋は続いていた。(図2)。そして玄関からは真直である。玄関を左へ折れば私とKの室。(それは玄関と解釈した)折れるということは廊下があるのだろう。(図3)



私とKの部屋から縁側伝いで向こう(ここでは茶の

冊と解釈した。)に行けることと、方角を含めて考えると図4のようになる。

(図4)



このほかに女中部屋・台所などはこの場合問題にはならないし、玄関から話し声の所在がわかることにも別におかしな点はない。ただここでただ1つ問題とな

りそうなのは、玄関がどう考えても北向きになってしまうことである。漱石ともあろう人がわざと北向きの玄関を設けたとは思えない。この作品が新聞に連載されていたことから、このような疑問が出てくるかもしれない。いずれにしても北向きの玄関は、Kの自殺と共に「こころ」の暗さを表わしているような気がする。

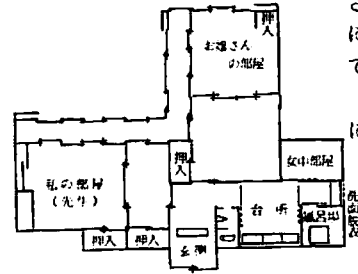
今回問取りについて再び考えてみると、前回に矛盾

点と考えられた部分が私たちの読み足りなさによって生じた過りであり、また新しい矛盾点も発見できなかった。しかしこれらはあくまでも私たち個人の考えであり、必ずしも正しいとは言えないことをここに断っておきたい。

参考文献

「日本住宅の歴史」 平井 聖著

(註) 上の永山・佐藤両君の小論は、ビブリアNo.37 (昨年5月発行) に載せたものに対して、建築学を専攻された校長が、図書館に下図の様な一案を示



された。それを参考にしての再度の論考である。

両君の熱心な考察に敬意を表したい。

(館長)

図書館への親しみ

5 C 鈴木 修

高専に入学するまでは、図書館なんて私にはまったく縁のなかった所であった。しかし、工業化学科には宿命的ともいえる実験レポートの提出があったのである。そのため、必然的に参考文献を借りるために図書館に行くようになったのである。

食わず嫌いということがあるが、私の場合は図書館に行かず嫌いだったようである。「図書館」と聞くと「ガリ勉」などという暗いイメージが湧いてきてしまったのであるが、よく行くようになると冷暖房完備であり、また雑誌などもあってなかなか居心地がいいのである。

友だち2,3人でいくと話がはずんでしまい、うるさくなってしまふのである。そういうときにでてくるのが図書館の主(ぬし)ともいふべき、通称、図書館のおばちゃんである。このおばちゃんの特意のフレーズが、

「静かにしてちょうだいね!!」

である。まさにこれは、鶴の一声である。このフレーズがでると図書館内が一瞬のうちに「し〜ん」となってしまうのである。それを言われる私たちは、いやだと思っていた。

ところが、このごろ私はそのおばちゃんと、とても

仲がよくなってしまったのである。それはいつごろからだっただろうか……。図書館に行くといつもうるさくしてしまう私は、ついにおばちゃんに顔を覚えられてしまったのである。そして、私が図書館に行くと、「あんたが来るといつも、うるさくなるんだよね!!」と言われるようになった。また、決定的に名前まで覚えられるようになったのは、私が書庫の中に入るときに、他人の学生証で入ったのを見つけれられたことからである。まさか、図書館のおばちゃんが学生証の写真と顔までちゃんと見比べはしないだろうと、高を括って入ったのがあまかった。

このようなことがあって、おばちゃんとよく話しをするようになったのである。話しをしてみると、とてもおもしろい人なのである。人は見掛けによらないものである。

みんなも図書のおばちゃんと仲良くなり、もっと図書館を利用して教養をつけようじゃないか!!

(学級雑誌「大樹」第4号から)



学生用雑誌に関する見解

去る3月、学生図書委員会がアンケート結果報告として、1. 今、図書館備付け雑誌の中で、a.読まれている雑誌 b.読まれていない雑誌 各12種と、2. 新しく備えてほしい雑誌12種とを示して来た。これら、「学生の声」への対応として、図書委員会では次の様に考える。(ビブリア№37に同種調査のデータをのせておいた)

1. 上のa.bを眺めると、その両方に顔を出している物が3種ある。この事実は、本校学生の学年の幅、順って発達段階・興味関心ないし必要度というものの違いが大であることを示す。高専図書館の図書選定の上で大事で困難な問題はここにある。今回は、bの上位二つ、中央公論と新劇とをとりあげ、止めることにしたい。

2. 前項で述べたように、上級生だけ・下級生だけの関心・必要に偏したものは困る。次に、既に同種の物が備えてあればふやさない。週刊誌はとらない。根本前提として、「学校の」しかも「高等教育機関の」図書館である事を失いたくない。MEN'S CLUB やポパイがうなづけない所以である。以上の諸観点から、今回は、タウン誌いわざをとり上げ、備付けることにしたい。

最新の情報に接し、また快い趣味・娯楽を養うものとして、ふさわしい雑誌をできるだけとり揃えて提供したい心は山々ある。ちなみに、市の中央図書館の多種多様な諸雑誌は大半が、市民有志者の寄附(新品か読みふるし)によると聞いている。

今後の一つの示唆にもなりそうである。(館長)

友だちにも読ませたい本

第一回 4年生

(注) 1. ◦印は専門学科関係

2. 書名だけのものは再出のもの

勤める人	書名	著者	発行所	理由・その他
[機械工学科]				
加藤 信浩	地球になった男 一握の砂・悲しき玩具 ◦材力の演習	小松 左京 石川 啄木	新潮文庫 "	おもしろい ためになる 問題を解くカギ たまには文学を 怪奇の世界 おもしろい ためになる
篠崎 憲一	斜陽 ドグラ・マグラ ◦おもしろい物理学 ◦エピソード科学史	太宰 治 夢野 久作 ベヒリマン レオクム	角川文庫 " 教養文庫 "	
[電気工学科]				
秋田 裕次	竜馬がゆく 三国志	司馬 遼太郎 吉川 英治	文春文庫 講談社文庫	おもしろそう "
石川 剛広	塩狩峠	三浦 綾子	新潮文庫	
猪狩 英公	冬の旅 狐高の人 けっぱり先生	立原 正秋 新田 次郎 山口 瞳		
神田 和義	塩狩峠 されど我らが日々 ◦わかる半導体セミナー ◦新電気	柴田 翔 伝田 精一	文春文庫 CQ社 オーム社	
菊地 稔	智恵子抄 人間滅亡の唄 ◦わかる半導体セミナー	高村 光太郎 深沢 七郎	新潮文庫 "	
木村 義昭	二十歳の原点	高野 悦子	新潮文庫	

勤める人	書名	著者	発行所	理由・その他
斎藤 良次	真実一路 罪と罰 高瀬舟 二百三高地	山本 有三 ドストエフスキ 森 鷗外 笠原 和夫	新潮文庫 " " 勤文社	感動的 なんとなく 感動する
丹野 浩三 松崎 啓治	春の嵐 蒼い時 塩狩峠	ヘ ッ セ 山口 百恵	集英社	
松崎 秀夫	ジャン・クリストフ 嵐が丘 違っているかしら	ロマンロラン Eプロンテ 森村 桂	新潮文庫 " 角川文庫	
山崎 明慶 吉田 貞夫	手鎖心中 ○電子回路一 ○FORTRAN入門	井上ひさし 米山 正雄	文芸社 コロナ社	
[工業化学科]				
遠藤 佳伸	戦争と平和 ○相対性理論の世界	トルストイ J コールマン	新潮文庫 ブルーバックス	人間理解によい 4年生で役立つ
岡野 和久	人間の見せ方 人間の読み方 ユダヤ人の頭・日本人の頭	石川 弘義 " ジャック・ハルペン	広済堂 " 青春出版	読んでみるとよい " よみやすい
小檜山一彦	○化学系の進路と就職 それでも若者ですか 老子・荘子 きりぎりす 心の銃	石川 弘義 森三樹三郎 太宰 治 亜無亜危異	三共出版 ゴマブックス 新潮文庫	よい 考えさせられる ためになる
佐藤 浩幸	水点 上・下 冬の旅 太郎物語(高校大学編) 出家とその弟子 ○ガスクロマトグラフィー 塩狩峠 一年一組せんせいあのね 死にたがる子	三浦 綾子 立原 正秋 曾野 綾子 倉田 百三	朝日新聞文庫 新潮文庫 " " 共立出版	考えさせられる 感動する おもしろい 考えさせられる 役に立つ 感動の名作
鈴木 哲史		灰谷・鹿島 藤原	理論社 新潮文庫	子ども達の感覚の鋭さ 現代社会への問題 提起
	○初等化学結合論 Elements of Physical Chemistry ○大学演習 一般物理学 話しことばの科学 聞き方の理論 鉛筆の先っちょ ○容量分析 ジャンクリストフ コインロッカーベイビーズ Japan as No 1 心の銃 ○大学演習 有機化学 史記	G.I.ブラウン Glaston Luwis 斎藤美津子 " 大橋 歩	培風館 丸 善 椒花房 サイマル出版 " 共立出版	分り易い 簡単な英文献 誤解のないコミ ュニケーション
平 恵久子				
大利 英昭		村上 龍		分り易い
但野 春高		司馬 遼	榮華房	当時人の生き方・ 考え方
長岡 義幸	薬の危険な副作用 高専関係法令資料集	高橋・平沢	KKベストセラーズ 第一法規	私達の学校を見直す

勧める人	書名	著者	発行所	理由・その他
坂東 重和	オズの魔法使い フェノメナ (幻象博物館) 空飛ぶ円盤同乗記	(英国人) G. アダムスキ	早川文庫 創林社 商文社・ 角川文庫	絶対いい続刊書 別な世界も存在する 宇宙人とコンタクトの古典
山形 昌伸	コスモス 上・下 人間マルクス ○理解しやすい化学I ○核化学入門 ○化学使覧 (基礎編) 風神の門 夢・愛・17才 ○電子顕微鏡分析	カールセーガン 向坂 逸郎 東久保勝彦 D.J. Carswell 日本化学会 司馬遼太郎 河合奈保子 水渡・滝山	岩波新書 文英堂 丸 善 〃 新潮文庫 ワニブックス 東京化学同人	苦悩な彼の人生論 一般基礎化学 興味ある人の入門書 必持文献 4年実験で役立つ
[土木工学科]				
阿部 光夫	今宵われら星を奪う ○衛生工学	ジュン・ジェイクス 土木学会	ハヤカワ	痛快
神尾 正充	君的生活の方法	渡部 昇一	講談社	金の使い方が分る
加山 幸弘	君の名は 上・下 十六夜日記 椿説弓張月 ○土木工学 ハンドブック上中下	菊田 一夫 阿 仏 尼 滝沢 馬琴 土木学会	春陽文庫	
志賀 雅人	水点 上・下 続水点 上・下 出家とその弟子			感動作 必読書
菅波 享芳	土 青春の門 青春の門 愛情セミナー 九月の空 湖底の祭 野 火 ○土木工学概論	長塚 節 五木 寛之	新潮文庫 講談社	感動作 その人生を考える
高橋 幸也	○土木工学ハンドブック	遠藤 周作 高橋三千綱 泡坂 妻夫 大岡 昇平	新潮文庫	志賀教頭推薦 近ごろの最高作 土木理解に最良 ためになる
中野 孝	○土木工学ハンドブック			
山口 和美	飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ ○土木工学ハンドブック			先生推薦
横田 貴治	太閤記	吉川 英治		戦国の世や人間関係

❖ 附 言 ❖

必読書目を本校生の実態に即して固めてゆく資料として、今年度4回発行予定のピブリアに、4・3・2・5年生の順で良書推薦を企画した。

学級図書委員に記入用紙の配布と回収を託した。

5月23日、回収数は、M-2, E-12, C-11土-10。甚だ意に満ため数で、殊に機械工学科の組は一体どうなっているんだろう。

図書館と読書に関する本校学生像

—「高専学生の意識調査」から—

全国高専協会が去る1月下旬に実施したもので、本校では各学年・学科とも20名ずつが応じたデータ。その第11, 第12項目を掲げる。

11 あなたは図書館をよく利用しますか。

(A, B それぞれから1つだけ)

A 自分の学校の図書館	本 校	全 国
(1) よく利用する	21%	20%
(2) 時々利用する	57	60
(3) 利用しない	22	20

B 自分の学校以外の図書館	本 校	全 国
(1) よく利用する	3%	4%
(2) 時々利用する	16	26
(3) 利用しない	81	70

C 自分の学校以外の図書館を利用するのは、どんな場合ですか。

12 授業関係以外の読書として主にどんな本を読んでいますか。(いくつでもよい)

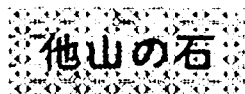
- | | |
|-----------|-------------------|
| (1) 哲学 | (11) 言語学 |
| (2) 宗教 | (12) 文学 |
| (3) 歴史 | (1) 日本文学 |
| (4) 伝記 | (ロ) 外国文学 |
| (5) 地理・紀行 | (イ) SF および推理小説 |
| (6) 社会科学 | (ニ) ノンフィクション |
| (7) 自然科学 | (ホ) 詩歌 |
| (8) 技術 | (ヘ) その他 |
| (9) 医学 | (13) その他(漫画・週刊誌等) |
| (10) 産業 | |

	本校	全国
(1)	7%	7%
(2)	4	5
(3)	13	17
(4)	9	11
(5)	8	10
(6)	5	7
(7)	25	19
(8)	21	21
(9)	2	3

	本校	全国	
(10)	4%	4%	
(11)	3	5	
(12)	(イ)	44	34
	(ロ)	27	21
	(ハ)	46	45
	(ニ)	21	24
	(ホ)	5	6
	(ヘ)	3	5
(13)	61	65	

(註)

全国傾向に比べて有意差の見られるところは、1. 自校以外の図書館を利用することは少ない。2. 読書は歴史物が低い反面、自然科学等が高い。3. 文学の内では、正統的な文芸が高い。という点のようだ。



県北高校生の読書の実態 1カ月ゼロ冊 なんと41%も

この調査は、県立学校図書研修会・県北支部が昨年10月、県北地区13高校の生徒約1万人を対象に実施した。

まず1カ月に読んだ本の量が、ゼロ冊というのが男子1~3年で、それぞれ47、46、48%。約半数近くはまったく読んでいないことになる。女子の場合ゼロ冊は1~3年で34、35、32%と若干少ない。

1カ月1冊が男子で22%、女子で26%ぐらい。4、5冊読むのは、ほんのひと握りだけ。

読書しない一番大きな理由は「本がきらい」、次いで「勉強・宿題でひまがない」「テレビを見るのでひまがない」「クラブ活動で時間がない」そのほか「塾補習で時間がない」というのから「読む気になれない」「読むのが面倒」などという、なぜやり組もいる。

読書する高校生でも、その読書時間は30分以内というのが全体の61%となっている。

1カ月の間に読んだ本のベスト5は、調査時点での世相もあってか、男女・学年を問わず1位は山口百恵の「蒼い時」。2位以下では、男子は「野獣死すべし」(大藪春彦)「四季・奈津子」(五木寛之)、女子では

「四季・奈津子」「赤毛のアン」など。

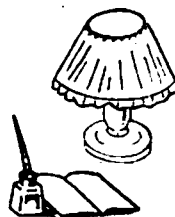
感動を受けた本として、日本の作品では「坊っちゃん」「こころ」「蒼い時」、外国作品では「老人と海」「赤毛のアンシリーズ」「レ・ミゼラブル」など。

よく読む雑誌・週刊誌となると、やはりマンガで、

男子	女子
① 少年ジャンプ	① セブティーン
② プレイボーイ	② マーガレット
③ 少年マガジン	③ プチセブン
④ 少年チャンピオン	④ りぼん
⑤ 平凡パンチ	⑤ 少女フレンド

の順。

(56.4.16 サンケイ新聞)



近ごろ読んだ本・今読んでいる本

1年生 56年4月中旬調査

近代文芸	外国文芸	現代文芸	推理・SF	科学・教養	雑・不明
<p>[機械工学科] 坊ちゃん・破戒・友情・野菊の墓・風の又三郎</p>	<p>レミゼラブル・初恋(ソルゲネーフ)</p>	<p>足寄より(松山千春)・けっばり先生(山口瞳)・おんな太陽記</p>	<p>シャーロックホームズの思い出・ヒュッチャメン暗殺計画・地底世界のベルシダ・ほくが猫語を話せるわけ・幽霊塔・禁断のメルヘン(有恒)・地球の汚名(有恒)・人間の証明・悪霊島・SF四次元問答</p>	<p>ロウソクの科学・COSMOS(セーガン)・第三の波(トブラー)・新約聖書・白夜の旅(東山)・素朴な疑問</p>	<p>アンドロメダ占星術</p>
<p>[電気工学科] 坊ちゃん・硝子戸の中・三四郎・我輩は猫・破戒・高瀬舟2・最後の一句・友情・トロッコ・地獄変・銀河鉄道の夜・人間失格・晩年・人間の壁(遠三)・地図のない旅(康成)・次郎物語</p>	<p>車輪の下・ムーミンパパの思い出</p>	<p>おせっかいな神々・気まぐれ博物誌・マイ国家・ようこそ地球さん・白い服の男(以上)・星・俺の空(本宮)・新選組・ドクトル先生漂流記</p>	<p>ヘルンダ・神々自身(マンモック)・宇宙を僕の手の上に(ブラウン)・宇宙の戦士(ハインライン)・ガンバの大冒険(アリス)・虫の楼閣(森村)・超高層ビル殺人事件(森村)・悪魔はあくまで悪魔である(都筑)・ドラゴンになった青年・野獣死すべし(大藪)・よみがえる金狼(大藪)</p>	<p>四次元の世界(都筑)・相対性理論の世界(コールマン)・飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ(井村)</p>	<p>大予言(立島)・ビートルズエピソード</p>
<p>[工業化学科] 坊ちゃん(2)・ころろ・生まれ出づる悩み・一房のぶどう・杜子春・暗夜行路・トロッコ・羅生門・人間失格・しろばんば・古都・黒い</p>	<p>車輪の下・戦争と平和・罪と罰・椿姫・ジャンクリストフ・ロヘンリ短篇集</p>	<p>塩狩峠(三浦)・おかしな先祖・宇宙のあいさつ・にぎやかな未来(筒井)・俗物大凶鑑</p>	<p>ウネルヴェル城の秘密(ルブラン)・悪魔はあくまで...</p>	<p>零の発見・価値ある創造(湯川)・COSMOS(3)・スペースシャトルCOSMOSへの旅</p>	<p>プロジェクトライフライン</p>

近代文芸	外国文芸	現代文芸	推理・SF	科学・教養	雑・不明
雨・里見八犬伝	老人と海	(筒井)・私説博物誌(筒井)・フィフティーン(吉田)・オロシアを見てきた男・なんとなくクリスタル(3)		立ち・シルクロード(NHK)	
[土木工学科] 我輩は猫・三四郎(2)・生まれ出づる悩み・暗夜行路(2)・友情・野菊の墓(2)・路傍の石・雪国	車輪の下・老人と海	奇病連盟(尾)・月と十セント(北)・赤ひげ診療譚(山本)・宮本武蔵(吉川)・西郷隆盛・北政所ねね・絶唱・蒼い時(山口)	核戦争回避せよ(ハヤカワ)・虹のパスポート(森村)・戦国自衛隊(平村)・機動戦士ガンダム(富野)・日本沈没・世界短篇推理小説集(江戸川)・野獣死すべし	ブラックホール・COSMOS(2)・ニューメキシコに円盤が落ちた話・食生活探検(石毛)	ノストラダムスの大予言(3)・18才未満の犯罪について・ラグビーのいろいろ・甲子園野球(小沢)・ふるえる舌・鬼畜

全く読まない者

	M	E	C	土	計	%
実数	16	7	11	4	38	23
在籍	41	40	40	40	161	100

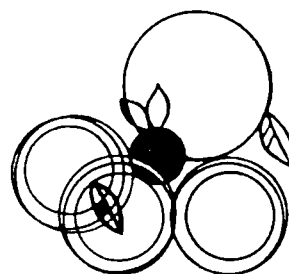
❖ 附言 ❖

新入生を、5年間の本格的な読書生活に導き入れるに当たり、その出発時の条件・状況をつかむ必要があったこと、また、今年度努力目標に関連して、本校生のための必読書目を固めてゆく一材料を得たかったことの二目的で、全員に記名で書き出させた。

概括すると、1. Cが文芸に、Eが推理物に強く、Mが貧しい。2. まだ一流の古典的著作に親しむ力

(知識と意欲)が弱い。3. 一方、妙な先走り、つまり安手のベストセラーに引きずられる傾向が見える。4. さすがに科学系への関心の萌芽が現れている。5. SFは絶対優位だが、見方によってはこれは科学的世界観への近づきの1ルートであろう。6. 要するに段階的な読書指導の必要が痛感される。

(国語科 池田)



利 用 者 統 計

一日一日、利用者一人一人の地道に積み重ねた、そして図書係職員によってトレースされた、本校図書館の全体像がここにある。どうか、心して見てくれたまえ。

1. 53年度～55年度（3カ年）学生利用状況

NO C 分類 利用冊数 年 度	実 数			%		
	5 3	5 4	5 5	5 3	5 4	5 5
総 記	890	604	781	8.8	5.5	6.6
哲 学	679	961	1,222	6.9	8.9	10.3
歴史・地理	97	141	125	1.0	1.3	1.0
社会科学	136	248	175	1.3	2.2	1.5
自然科学	2,612	3,012	2,717	26.0	27.4	22.8
工学技術	4,886	5,054	5,323	49.0	45.9	44.6
産 業	15	18	10	0.1	0.2	—
芸術・体育	50	73	70	0.5	0.7	0.6
語 学	157	193	264	1.6	1.7	2.2
文 学	500	702	1,240	5.0	6.4	10.4
合 計	10,022	11,006	11,927	100	100	100

実数が増加を続けているのは喜ばしい。分類別では、自然科学の落ちに対比して、文学の伸びが目立つ。

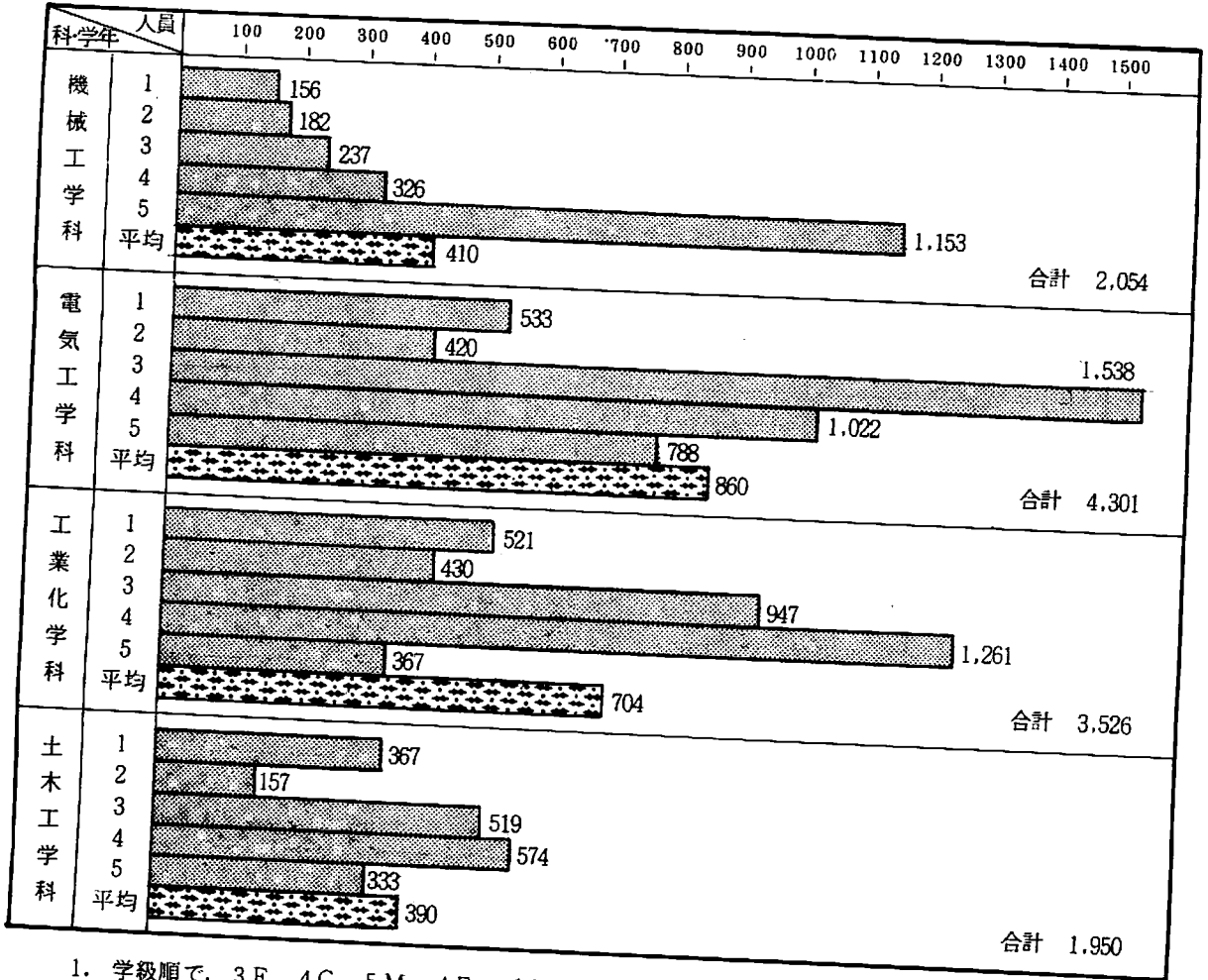
2. 55年度利用人員（科・学年別）

科	学 年	1	2	3	4	5	計	%
機 械		156	182	237	326	1,153	2,054	17
電 気		533	420	1,538	1,022	788	4,301	37
化 学		521	430	947	1,261	367	3,526	30
土 木		367	157	519	574	333	1,950	16
計		1,577	1,189	3,241	3,183	2,641	11,831	
%		13.3	10.0	27.4	27.0	22.3		100

学科別で E.C.M. 土の順は昨年と同じ。

学年別では 3・4・5・1・2 の順（昨年は 4・3・5・2・1）

3. 55年度利用人員(科・学年別)



1. 学級順で、3E, 4C, 5M, 4E。(昨年は4C, 4M, 3E, 4E) 3Eの躍進が著しい。
2. 電気工学科が総体的に高く、土木工学科が低い。
3. 最高の3E(1,538)と最低100台の1M, 2土, 2Mとのひどい大差。

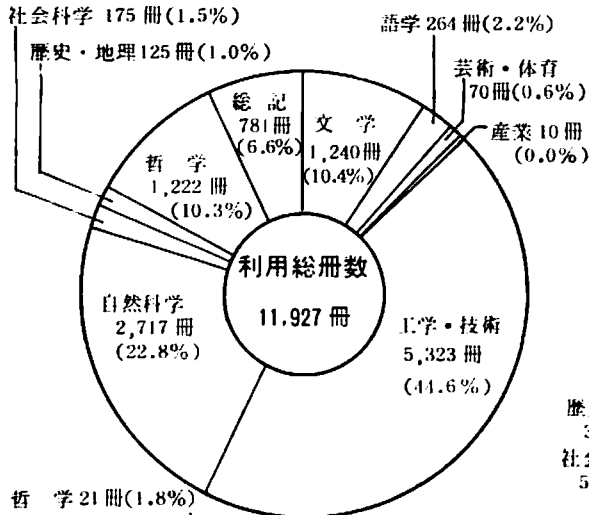
4. 55年度学年別・分類別利用冊数

分類	1		2		3		4		5		計	%
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総記	227	14.6	86	7.4	175	5.4	189	5.9	104	3.7	781	6.5
哲学	299	19.2	21	1.8	530	16.4	351	11.0	21	0.8	1,222	1.0
歴史・地理	31	2.0	20	1.7	23	0.7	41	1.3	10	0.4	125	1.0
社会科学	51	3.3	21	1.8	57	1.75	27	0.8	19	0.7	175	1.5
自然科学	414	26.6	366	31.5	673	20.8	1,021	32.0	243	8.8	2,717	23.0
工学技術	139	8.9	332	28.5	1,466	45.3	1,280	40.0	2,106	76.0	5,323	45.0
産業	2	0.1	2	0.15	2	-	4	0.2	0	-	10	-
芸術・体育	30	1.9	10	0.9	17	0.5	8	0.3	5	0.2	70	0.4
語学	41	2.6	38	3.25	79	2.45	48	1.5	58	2.0	264	2.2
文学	324	20.8	268	23.0	217	6.7	227	7.0	204	7.4	1,240	10.4
合計	1,558	100	1,164	100	3,239	100	3,196	100	2,770	100	11,927	100
%	13.0		9.8		27.2		26.8		23.2		100	

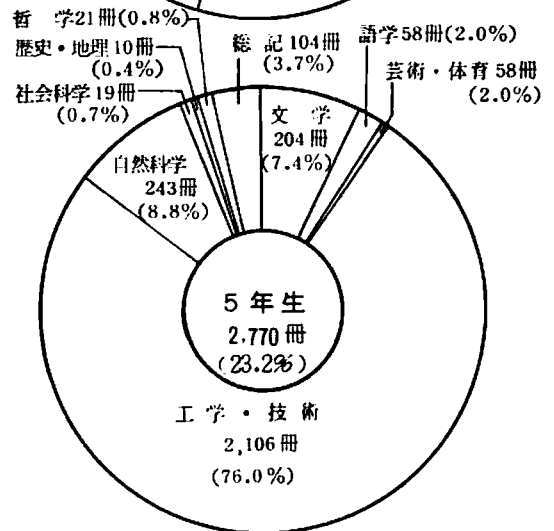
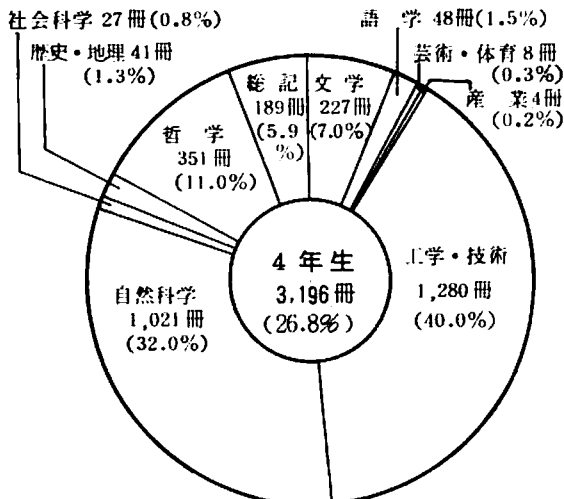
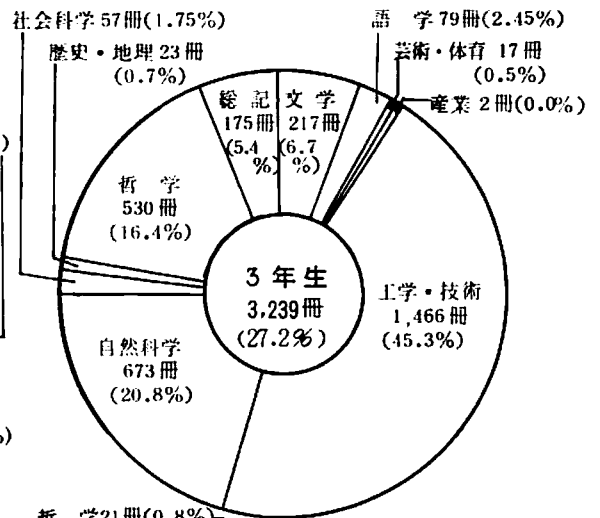
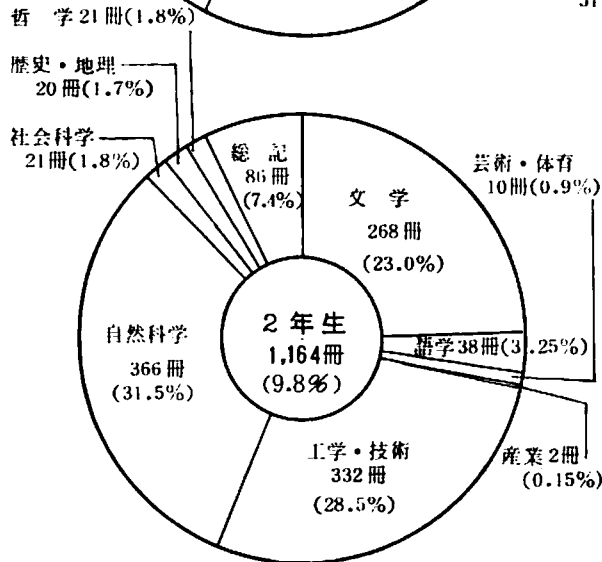
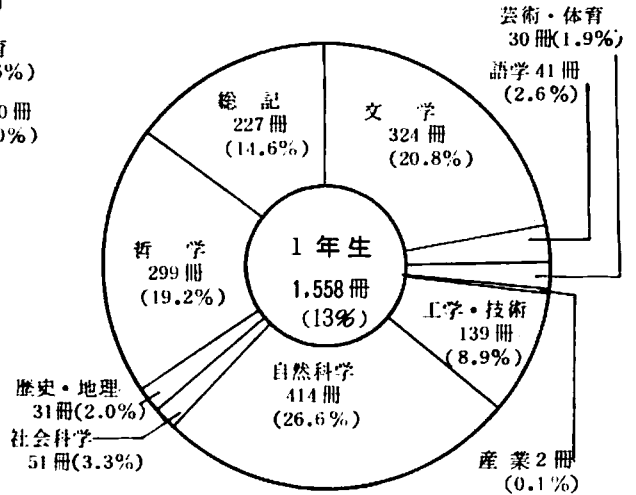
本校の性格、つまり在学者の型と教育課程上の科目の学年配当と学生の発達段階、あるいは授業に伴う読書指導・図書館利用指導・その他の種々の因子が相乗されてでき上った複雑な表といえることができる。

5. 55年度 学年・分類別利用冊数

(2) 分類別



(1) 学年別



寄贈図書紹介

このたび下記各位が、図書を寄贈して下さいました。厚くお礼申し上げます。ついでには末長く図書館に備付け活用させていただきます。

第15回卒業生(今年3月卒業)一同 殿

世界伝記大事典 全17巻総索引 ほるぶ
書架付総額 214,500円

ヤマニ書房 殿

日本古寺美術全集

25 三十三間堂と洛中・東山の古寺

集英社

現代地理教育講座

3 地誌学習の基本問題

古今書院

岩波理化学辞典

岩波書店

近藤次郎

数学モデル

丸善

BASIC入門

アスキー出版

日米国語辞典

朝日出版社

宇田新太郎

レーダ工学演習

学献社

マルトモ書店 殿

鈴木粧美

重金属中毒

医歯薬出版

微生物のつくる生理活性ペプチド

共立出版

Osamu Hagaishi

Biochemical and Medical Aspects
of Active Oxygen 学会出版センター

日本化学会編

錯体化学からみた生体系とそのモデル

同

化学生態学の展望

同

久保明良

がん化学療法の実際

南江堂

田部浩三

金属酸化物と複合酸化物

講談社

ダイヤモンド社 殿

西山千明

日本経済の落し穴

ダイヤ

住友建設 殿

住友建設三十年史

住友建設

磯谷公良 殿

磯谷公良編

難病克服への道

鳩の森書房

健康救命法

同

日章製作所 殿

陳舜臣

シルクロード絲綢之路

5 天山南路の旅

日本放送出版協会

同

6 民族の十字路

同

国際電信電話 殿

国際電信電話年報 昭和53・54年度

国際電信電話

国際電気通信関係略語集

同

衛星通信年報

同

職業指導学国際会議事務局 殿

職業指導学国際会議報告書

芦屋大学

第2回職業指導学国際会議報告書

同

日本港湾協会 殿

川崎港海底トンネル工事誌

上・下

日本港湾協会

和同会 殿

色盲治療の最新情報80'

和同会

土木学会 殿

岡部三郎さんを偲んで

土木学会

小磯武文 殿 (本校教官)

宇野芳 一般化学 東京書籍
 鈴木善孝 有機工業化学 東京電機大学出版局
 山本大二郎 基本物理学実験 (2冊) 産業図書
 高橋武雄 機器分析大意 同

鳴子町観光協会 殿

鳴子温泉郷 鳴子町観光協会

平活版所 殿

日立労働運動史 日立労組日立支部

土木研究所企画課 殿

耐風耐震構造専門部会第12回合同部会会議録 土木研究所

新日本製鉄 殿

炎とともに新日本製鉄株式会社十年史 新日本製鉄
 炎とともに富士製鉄株式会社史 同
 炎とともに八幡製鉄株式会社史 同

パイオニア株式会社 殿

Sound Creator Pioneer パイオニア

講談社 殿

末武国弘 科学論文をどう書くか 講談社

旭硝子工業技術奨励会 殿

旭硝子工業技術奨励会研究報告 vol 36・37 1980年 旭硝子工業技術奨励会

新栄堂書店 殿

M.&R. フリードマン 選択の自由 日本経済新聞社
 糸川英夫 前例がないからやってみよう 光文社
 横溝正史 悪霊島 角川書店
 井村和清 飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ 祥伝社
 戸板康二 新ちょっといい話 文芸春秋社
 遠藤周作 侍 新潮社
 藤本義一 大人になったとき読む本 青春出版社
 井沢元彦 猿丸視行 講談社
 大江健三郎 同時代ゲーム 新潮社
 松山千春写真集 激流 小学館
 曾野綾子 神の汚れた手 上・下 朝日新聞社
 瀬戸内晴美 ころろ 上・下 講談社
 五木寛之 男と女のあいだには 上・下 新潮社
 松本清張 黒革の手帖 上・下 同
 五木寛之 青春の門 望郷編 上・下 講談社
 半村良 妖星伝 1 鬼道の巻 同
 同 2 外道の巻 同
 同 3 神道の巻 同
 同 4 黄道の巻 同
 同 5 天道の巻 同
 同 6 人道の巻 同
 五木寛之 四季・奈津子 上・下 集英社
 フレデリック・フォーサイス 悪魔の選択 上・下 角川書店

新着図書目録

◆印は図書館、他は各教官の研究室に所在するものを分類別受入順に記載。

総記

福島民報編年版 昭和55年11月～12月号 福島民報社
 朝日新聞編年版 昭和55年11月～1月号 朝日新聞社
 長編年鑑 昭和58年版 福島民報社
 朝日年鑑 昭和58年版 名通統計資料編 同
 日本写真年鑑 昭和56年 日本写真新聞社
 購費のあとで 日本リクルートセンター出版部
 福沢諭吉選集 1.3.9 岩波書店
 同書天心全集 7 平凡社
 東洋文庫
 391 南洋探検実記 同
 392 アブドゥッラー物語 同
 393 王船山詩文集 同
 394 ライラとマジューン 同
 人類の知的遺産
 73 ヴァイトゲンシュタイン 講談社
 沼館愛三
 会津・仙道 海道地方領域の研究 伊吉書院
 現代用語の基礎知識 特編版 1981 自由国民社
 読部章一
 読書有朋 大修館書店
 読書連弾 同
 小糸忠吾
 世界の新聞通信 1 理想出版社
 松本健一編
 詳解現代論争事典 成教出版
 桂五十郎編
 源流解題 日本図書センター
 人類の知的遺産
 32 デカルト 講談社
 世界の名著
 14 キケロ、エピクテトス マルクス アフレリウス 中央公論社
 65 マイネッケ 同
 78 孫文 毛沢東 同
 哲学
 内村直三全集 1. 2. 6. 8. 11 岩波書店
 中村勝己
 内村直三と矢内原忠雄 リプロポート
 船岡誠 道元と正法眼蔵題詞記 評論社
 相良亨 誠実と日本人 ベリカン社
 山折哲雄
 日本宗教文化の構造と類型 東京大学出版会
 前田泰雄
 古代人の精神世界 ミネルヴァ書房
 ボヘンスキー 古代形式論理学 公論社

藤沢令夫
 イデアと世界 岩波書店
 カール・ロジャーズ 創元社
 人間の潜在力
 マンリーP.ホール 人文書院
 古代の密儀
 ルドルフH.モース 朝倉書店
 環境と人間性
 飯島宗亨編
 キルケゴールの講話講義書 1 新地書局
 アウグスティヌス著作集 教文館
 14 神の国 4
 日本哲学思想全書
 15 武術 兵法論 教育論 一般論 平凡社
 16 修身論 茶道論 同
 17 政治 法律論 同
 18 経済論 同

歴史

中華人民共和国地図集 帝国書院
 ソ連東欧 文明堂
 高橋野夫
 明治の士族 歴史春秋社
 野村三三
 ピアノ師の人 ぶんかん書房
 最新分省中国地図 香港学林書店
 魏特爾北朝史 上海人民出版社
 ジョン・ホープ・フランクリン
 アメリカ軍人の歴史 研究社
 M.G. カメン
 逆説の国アメリカ 同
 トマス・ホーヴィング
 ツタンカーメン秘話 白水社
 平井正 ベルリン彫刻と幻影の時代 1918～1922 せりか書房
 地澤一他
 地図の風景 中部編 1. 静岡 山梨 同
 2. 関東編 3. 千葉 茨城 同
 F.ハルトウング
 ドイツ国制史 岩波書店
 石井良助編
 明治文化史 2. 法制 原書房
 吉田史伍
 大日本歴史地図 富山房
 山口忠一郎編
 日本地名辞典市町村編 東京堂出版
 斉藤忠 図録東西文化交流史 吉川弘文館
 黄就卿 現代中国地理 帝国書院
 P.シラー
 西ドイツ地理学者のみた日本 地人書房
 上野直昭編
 明治文化史 8. 美術 原書房
 目で見える現代 世界地図 '80 朝日新聞外報部
 日本の山河
 27 天と地の原 岐阜 国書刊行会
 31 岡 石川 同
 32 岡 富士 同
 日本庶民生活史料集成
 25 部落(二) 三一書房
 角川日本地名大辞典
 7 福島県 角川書店
 世界の地理

13 アングロアメリカ 朝倉書店

社会科学

日本教育年鑑 昭和58年版 ぎょうせい
 全国短大・高専職員誌 昭和58年版 広田社
 昭和の陸軍 目で見える日本風俗誌 2 日本放送出版協会
 地域問題事典 学陽書房
 現代地理教育講座 2. 5 今吉書院
 変貌する地域と経済 新評論
 鈴木秀夫 他
 日本の食生活 朝倉書店
 杉村健二
 教職の地理学 大明堂
 林正己 町村の広域化と地方自治 今吉書院
 植村元寛
 北陸の都市と農村 同
 山村悦夫
 地域均等発展論 大明堂
 伊藤達也
 人口変動の地域構造 同
 伊藤信隆
 科学教育思想史 共立出版
 林竹二 学おということ 国土社
 永井道雄
 これからの教育を考える 同
 林竹二 教えるということ 同
 日本文化会議編
 西欧の正義 日本の正義 三書社
 南博編 日本人の人間関係事典 講談社
 谷藤正三
 住みよい町づくり 倉北出版
 中村啓 秘説英語教育論 研究社
 北村崇徳
 寄りゆくアメリカ 同
 東前長雄
 英語世界の俗信通信 大修館書店
 井出光光編
 アメリカの両部 研究社
 本間長世編
 アメリカの大衆文化 同
 山本明 情報を読む ティビーエス・ブリタニカ
 ジェイムズ・カーカップ
 日本人と英米人 大修館書店

自然科学

基礎電磁気学 電気学会
 電磁気学演習 同
 電磁気学 オーム社
 岩波数学辞典 第2版 岩波書店
 岩波理化学辞典 同
 生物活性天然物質 医歯薬出版
 電磁気学 電気学
 古久信幸
 わかる電磁気学演習 日新出版
 わかる電磁気学 同
 杉山昌平
 ラプラス変換入門 実教出版
 大村平 確率のはなし 日科技速
 科学技術と英表現大辞典 vol.1 (A-J) 小倉書店

伏見康治	確率論および統計論	現代工学社	非線形系追跡法	森北出版	奥田邦雄	新編解医学英語辞典	メジカルビュー社
淡中忠昭	統計学の理論と応用	養賢堂	O. Veblen	ヴェブレンの位相幾何学	同	A. クロウクロフト	精神医学への招待
高橋幹郎	統計数値解析	培風館	花井哲也	種とイオン 物質移動の理論と計算	化学同人	宇田川註久	解読演習電気磁気学
土屋長彦	基礎電子物性	実教出版	押田勇雄	物理数学演習	裳華房	佐藤瑞穂	基礎電気磁気学演習
山田光雄	ベクトルとテンソル	内田老鶴園新社	E. シェルガフ	ヘラクレイトスの火	岩波書店	後藤憲一	詳解電気磁気学演習
若菜光雄	大学課程電気磁気学演習	昭見堂	藤井陽一郎	写真図説 地震	国書刊行会	板庭一郎	電子物理学
中田勝広	テキストブック電気磁気学	日本理工学出版	アーノルド	古典力学の数学的方法	岩波書店	吉田重知	物性電子物理学
金古喜代治	電気磁気学	学友社	伊藤英寛	大学講義 流体力学	丸善	土田英俊	高分子の科学
群上道徳	電気磁気学解説と演習	理工図書	藤谷正一	初めて化学の理論を学ぶ人のために	オーム社	竹内外史	線形代数と量子力学
熊谷寛夫	電気磁気学演習	朝倉書店	兵衛壽	熱力学	パワー社	村田通	流体力学
A. アルバート	選択書性	学会出版センター	矢野健太郎 他	科学技術者のための基礎数学	裳華房	野村男次	レダクソンの化学
山岡重夫	有機金属化合物の構造決定 1, 2	講談社	角田忠信	日本人の脳	大修館書店	木下滋一	水久漢士
阪東源一郎	有機金属化合物の反応 1, 2	同	キースラー	無限小解析の基礎	東京図書	日本化学会編	化学防災指針 1~7
清山行郎	金属酸化物とその触媒作用	同	斉藤正彦	超積と超導解析	同	科学の名香	3 ロジャー・ベイコン
V. Ja アルセニン	物理数学	森北出版	田島一郎	解析入門	岩波書店	コスモ宇宙	1 地球と銀河を結ぶ80億光年の旅
石川広美	差分方程式入門	コロナ社	樋口祐一	多変数複素解析入門	森北出版	基礎数学選書	21 行列特論
丸山益輝	科学技術論	丸善	沢田昭孝	連続体の数理解析	東海大学出版	23 テンソル解析	同
小久久直	物理学のための確率過程論	コロナ社	米山昌成	数学の精神 思想 方法	同	現代天文学講座	8 銀河系
東京電機大学編	電気磁気学	東京電機大学出版局	犬井鉄郎	応用群論	裳華房	新物理学シリーズ	2 電気磁気学
舟橋進治	演習電気磁気学 上・下	同	青木利夫 他	集合位相空間要論	培風館	理工学基礎講座	8 電気磁気学概論
藤田広一	電気磁気学演習ノート	コロナ社	成實清松	数理解析学要説	同	物理学実験	4 真空技術
山口勝也	最新精選電気磁気演習	オーム社	近藤長正	初等ベクトル解析	同	実験物理学講座	12 温度と熱
小野寛	電気磁気学	実教出版	小出昭一郎	演習電気磁気学	同	ブルーバックス	443 ブラックホールとその遭遇
フランクリン・ブランレー	宇宙の極限	白樹社	西野雄甫	有機化学と動電状態	廣川書店	448 パズル・ショートショート	同
田中一	夜空の星はなぜ見える	北海道大学図書刊行会	川村雅哉	電気磁気学	昭見堂	449 毒の効果逆効果	同
カール・セーガン	COSMOS 上・下	朝日新聞社	高橋秀俊	電気磁気学	裳華房	452 天体観測のすすめ	同
中野圭一	マイコン宇宙講座 楽しい軌道計算プログラム	廣済堂	田中謙一郎	解説電気磁気学の考え方	東京電機大学出版局	Do Carmo	Differential Geometry of Curves and Surfaces
F. ナイル	太陽系の起源	海鳴社	田口玄一	改訂新版統計解析	丸善	C. Herbert Clemens	Ascrapbook of Complex Curve Theory
Lyman Spitzer Jr	星間物理学	共立出版	原正人	初めて学ぶ人のための電気磁気学	啓学出版	K. O. Friedrichs	Advanced Ordinary Differential Equations
竹之内精	入門集合と位相演習	実教出版	石川静一	改訂電気磁気学演習	学友社	L. E. Baron O. Ferguson	Approximation by Polynomials With Integral Coefficients
金光弥	有限群論入門	同	朱山長一郎	電気磁気学演習	培風館	Enders A. Robinson	Digital Foundations of Time Series Analysis
小野手	オイラーの主題による変奏曲	同	卯木東郎	電気磁気学	昭見堂	Albrecht Dold	
A. Cohen	コーエンの微分方程式	リー群論の応用	竹山説三	電気磁気学現象理論	丸善		
早田保実 他							

Lectures on Algebraic Topology
Spring-Verlag

Soo Bong Chae
Lebesgue Integration Dekker
V. E. Golant
Fundamentals of Plasma Physics
Wiley Interscience

工学・技術

電気理論 1.学習の手引付 電気学会
同 2. 同
流れの可視化技術開発研究
材料技術資料センター
空気調和衛生設備のやさしい知識
オーム社
JIS圧力容器 解釈と計算例
日本規格協会
入門金属材料と組織 大河出版
ジョセフソン効果 基礎と応用 電気学会※
関門橋工事報告書 土木学会※
構造造形設計指針 日本建築学会※
鋼道橋設計便覧 日本道路協会※
エレクトロニクスのための電気回路の基礎
1~3 東海大学出版会※
新版電気計測便覧 オーム社※
電気回路論 電気学会※
過渡現象演習 工学図書※
回路網理論 電気学会※
エネルギー工学概論 同 ※
過渡現象論 同 ※
FTA安全工学 日刊工業新聞社
金属材料の弾性係数 日本機械学会
'81ナショナル半導体ハンドブック リニ
アIC論 誠文堂新光社
電気電子材料デバイス実装 電気学会
廃棄物のメタン酸酵 サイエンス社
鋳造鑄造法 新日本鑄造協会
現場アルミニウム合金鑄物 同
金属表面科学Ⅱ 朝倉書店
機械設計技術マニュアル
新技術開発センター
自動車設計のための数値計算機利用
学会サービスセンター
遊星自動車装置及び運動歯車装置の研究
同
土壌浄化法 講演録 本巻 別巻
土壌浄化センター
傳導増幅器 日本技術調査会
横浜=都市計画の実践的手法その都市づく
りのあゆみ 鹿島出版会※
自動車伝動機構設計のポイント
日本規格協会
温度計測の実務 日本工業出版
直流送電技術解説 電気学会
土木用語辞典 コロナ社
昭和49年制定コンクリート標準示方書
解説 昭和55年版 土木学会
機械製図の総合研究 技術評論社
機械設計図集(ポンプ編) パワー社
機械設計演習(同) 同
日本語版 More Basic Computer
Games アスキー出版
高強度コンクリート設計施工指針(案)
土木学会

第5回日本土木史シンポジウム予集
明治の鉄道 同
1980年度第16回水工学に関する夏期研修会
講義集 Aコース 同
光ファイバ伝送 電子通信学会
建設用語事典 ぎょうせい
代替燃料としてのメタノールの利用
Data No. UX 303(B) 日本技術調査会
構造物基礎入門 土質工学会
道路橋示方書 解説 V.耐震設計編
I.共通編 II.下部構造編 III.コンクリート
橋脚 日本道路協会
差動増幅器 日本技術調査会
林信夫 他
計算機ハードウェア実験 近代科学社
長橋芳行
A-D/D-A 変換回路の設計 CQ出版
飯田福一 他
Disk-BASIC入門 アスキー出版
N-BASIC入門 同
一色尚次
省エネCAR未来CAR 工業調査会
山西野夫
省エネ技術最前線 同
信澤寅男
エネルギー工学のためのエクセルギー入門
オーム社
森康夫 地熱エネルギー読本 同
宮崎孔友
実践機械工作法 学研社
上田祐男
破壊の基礎 パワー社
長岡金吾
機械部材の破壊解析 工学図書
二宮輝雄
撮像工学 コロナ社
鈴木八十二
マイクロコンピュータCRTディスプレイ
技法(テレビゲームの作り方) 産報出版
山本宏 橋梁美学 森北出版
菊池文雄
有限要素法概説 サイエンス社
ギョウター、ベツオー
金属エッチング技術 アグネ社
大谷南海男
金属の塑性と腐食反応 産業図書
窪田雅男 他
機械製作法(1) 森北出版
高橋進一
信号理論の基礎 実教出版
柳沢健 トランジスタ復帰回路演習 同
小郷寛 電子回路 同
チモシユンコ・ヤング
構造力学 下 ブレイン図書
山口忍 現場鑄造のテクニック実例集
新日本鑄造協会
石松博 鑄鉄鑄物 同
松永省吾
熱工学基礎講座 燃料及燃焼社
W. R. ブランデ
交通システム分析 森北出版
須田教明
最新測量学Ⅱ 同
谷本勉之助
測量計算法 同

H. H. ユーリック
腐食反応とその制御 産業図書
岡本剛 新編腐食と防食 大日本図書
G. Wranglen
金属の腐食防食序論 化学同人
柳井久義
半導体電子工学例題演習 コロナ社
中川威雄
薄板のプレス加工 実教出版
齊藤孟 工業熱力学 共立出版
泉亮太郎
工学基礎熱および熱機関 同
新見正 汚水の土壌浄化法研究 総論
学会サービスセンター
日本写真測量学会編
立体写真のみかた、とりかた、つくりかた
技報堂出版※
藤取潤 港湾整備と地域開発 産学社※
野澤太三 他
土木構造物の問題点と対策 1, 2 集文社※
鎌本盛久
構造工学の基礎 共立出版※
T. R. トーカート
構造力学とエネルギー原理 丸善※
多谷虎男
力学におけるテンソルと変分解析 上 下
学会出版センター※
フックブレイ
岩盤斜面工学 朝倉書店※
田畑貞寿
都市のグリーンマトリックス 豊島出版会※
椎貝博文
わかりやすい水の力学 同 ※
河村協編
図説土木用語集 現代理工学出版会※
中谷巨 他
建設技術者のための法規と行政
国民科学社※
吉田博 構造力学演習 不特定編 森北出版※
茂井喜代治
現代システム工学の基礎 オーム社※
A. D. ホール
システム工学方法論 共立出版※
渡辺理 はずみゲージとその応用 日刊工業新聞社
山田敏郎
材料力学 同
大南正典編
マイクロメカニクス入門 オーム社
千藤三千造
火薬 共立出版
柳井久義 他
要領回路工学 1, 2 コロナ社
松浦祐男
建築環境工学Ⅰ 朝倉書店
垂井忠明 他
デジタル計算回路 同
大北忠男編
環境工学概論 同
三宅康友 他
パルス回路 同
阿部善右衛門
計測回路
安居院猛
論理回路の故障診断 産報出版
武藤三郎 他
電力工学 森北出版
内山晋 磁性体材料 コロナ社

武藤三郎 他	送配電工学 I、II	森北出版	岡崎清 電気材料工学演習	学献社	近藤正道			
上之原良佐	現代電力工学	オーム社	林重孝 改訂電気数学演習	同	ポンプ	産業図書		
猪狩武尚	電気機械理論	コロナ社	大河内正陽	改訂電子回路本習	同	水環境指標	思考社	
宮人庄大	大学講義電気機械エネルギー変換工学	丸善	武部幹 情報伝送工学演習	同	中島康孝	ソーラーハウス設計の実験	オーム社	
藤高瑞平編	大学課程送配電工学	オーム社	小澤孝夫	電気回路 (1) 基礎交流編	昭見堂	工業火災協会編	山海堂	
宮人庄大	大学講義パワーエレクトロニクス	丸善	成田誠之助	電気回路理論	同	発破ハンドブック	山海堂	
関陽太郎	建設技術者のための岩石学	共立出版	有馬泉 基礎電気回路 1	森北出版	同	化学工学協会編	丸善	
岡村南	コンクリート構造の限界状態設計法	同	平野忠男	同 2	同	増補類	丸善	
山田嘉昭	塑性粘弾性	培風館	鬼塚新一	初めて学ぶ人のための交流理論	啓学出版	宮川松男	JIS 塑性加工品の製品設計	
坂田勉	振動と波動の工学	共立出版	松元栄 他	電気回路	学献社	大和久重	JIS 鉄鋼材料入門	大河出版
倉田宗章 他	構造力学 I、II	明現社	末武田弘	基礎電気回路 1. 2	培風館	素木洋一	セラミック製造プロセス 1~3	技報堂出版
能町純彦	同 I、II	初倉書店	前川幸一郎	対称座標法	啓学出版	後藤一雄	木構造の設計	鹿島出版会
高橋武雄	構造力学入門 1~3	培風館	井川浩男	演習電気工学 2	同	河井章好	鋼製ラーメン橋脚の設計と解説	理工図書
井上治 他	例題解説構造力学	理工図書	井口信洋	溶接構造設計入門	産業図書	高見寛	開発と水環境アセスメント技術	鹿島出版会
小町弘	内燃機関	パワー社	大南正琢	マイクロメカニクス入門	オーム社	井口昌平	川を見る	東京大学出版会
竹内龍三	内燃機関工学演習	同	平修二	材料の高温強度論	同	丹保憲仁	下水道工学例題演習	近代図書
牛山泉	小型風車ハンドブック	同	間宮富士雄	金属清浄技術	技書店	吉川博也	環境アセスメントの基礎手法	鹿島出版会
金剛均	風力発電機製作ハンドブック	同	吉沢武男編	硬さ試験法とその応用	養華房	斉藤一雄	緑化土木	森北出版
設計教育研究会編	ポンプ設計製図集	同	中根博司	土木計測概論	土木計測研究所	佐賀亦男	空のライバル物語	鹿嶋社
大町昌義	うず巻ポンプの設計	同	佐藤利三郎	精解演習伝送回路論	広川書店	天野孝一	飛行機の本	技報堂出版
島 章	大学講義水力学	丸善	武部幹編	伝送回路入門演習 1. 2	東海大学出版会	C. H. ギブズミス	科学発見のバイオニアライト兄弟と初期の飛行	東京図書
大場利三郎	大学講義流体機械	同	山田直平	改訂交流回路計算法	コロナ社	日本材料学会編	金属材料疲労設計便覧	養賢堂
山田一	リアモータと応用技術	実教出版	大熊栄作	交流回路と過渡現象	東京電機大学出版局	中村静治	技術論入門	有斐閣
山中秀男	技術文書のまとめ方 上 下	東洋経済新報社	林順雄	過渡現象論	技書店	C. A. プレビア	境界要素法入門	培風館
D. J. ハナント	繊維コンクリート	森北出版	又来英	電気理論問題の解き方 1. 2	コロナ社	L. Friberg	環境中のカドミウム	医歯薬出版
本間仁編	統水理学	丸善	田中謙一郎	これでわかった交流回路	オーム社	山代嘉宏	応用解析学	森北出版
市川新	都市河川の環境科学	培風館	斉藤実則	飯山と飯山集落	大明堂	島村敏	技術 家庭科 電気 (その理論と実際)	誠文堂新光社
土木学会編	土木学会誌論文報告集総索引 1915~1975	土木学会	末尾至行	水力開発利用の歴史地理	同	村田登祐	交流回路の計算とベクトル	オーム社
川島将男	PCM 通信システム	電子通信学会	吉川英夫	新原動機論	日本工業新聞社	山口勝也	詳解電気回路例題演習 1~3	コロナ社
伊藤剛	世界のかわ	日本河川開発調査会	一色尚次	わかりやすい熱と流れ	森北出版	川村雅哉	ラプラス変換と電気回路	昭見堂
谷内昌照	鉄筋コンクリート構造物の設計と施工	技報堂出版	日本材料学会編	金属材料疲労設計便覧	養賢堂	宇野孝一	過渡現象計算法	電機大出版局
大橋義弘	基礎工 (1)	同	加藤洋治	キャビテーション	技書店	徳田精 他	ラプラス変換法による過渡現象計算	国民科学社
土質工学会編	土質試験法	土質工学会	山本外史	電子回路 1. 2	朝倉書店	赤尾保男	精解演習過渡現象論	広川書店
	日本の特殊土	同	二木久夫	過温半導体の実際	産報出版	森真作	電気回路ノート	コロナ社
	土質工学における化学の基礎と応用	同	後藤浩司	技術英文の作法	オーム社	住谷野	電気理論の基礎と演習	培風館
	盛土の調査設計から施工まで	同	松代正三	改訂測量	コロナ社	高松吉郎		
吉見吉昭	砂地盤の液状化	技報堂出版	池森亀鶴	水力学	同			

工業数学の基礎 1. 2	同 令
近藤次郎	
ラプラス変換とその応用	同 令
川上正光 他	
基礎電気回路例題演習	コロナ社令
小野寺力男 他	
電気回路網基礎理論	学友社令
藤崎浩夫	
過渡現象と波形解析	東海大学出版会令
大熊栄作	
電気理論の入門	電機大出版局令
関谷社	
工業技術者のための応用数学概要	明文書房令
村田愛祐	
対称座標法入門	オーム社令
半沢正夫	
回路理論演習	森北出版令
赤尾保男	
電気回路論	広川書店令
斉藤正男	
改訂電気回路入門	コロナ社令
村上正夫	
電気回路と線問題の研究 上・下	近代科学社令
中野義秋	
精解演習電気回路論	広川書店令
天下真二郎	
詳解電気回路演習 上	共立出版令
山口勝也	
最新精選電気回路演習	啓学出版令
朝香鉄一	
品質管理のための統計数学	東京大学出版会令
水田博英	
わかりやすく解きやすい電気回路計算法の完成	啓学出版令
熊谷三郎	
過渡現象論	共立出版令
斉藤隆仁	
交流回路演習	工学図書令
岡小天	
誘電体論	現代工学社令
麻藤立男	
導線作成の基礎	日刊工業新聞社
加藤見 他	
スウェーデンの都市計画	国民科学社令
サイリスタエレクトロニクス	
1 サイリスタ素子	丸善 同 令
2 サイリスタ回路	同 同 令
3 サイリスタ装置	同 同 令
4 サイリスタの応用 上	同 同 令
5 同 下	同 同 令
機械工学基礎シリーズ	
エレクトロニクス入門	朝倉書店
ブルーバックス	
450 計る 測る 量る	講談社令
451 オーディオ小辞典	同 令
453 自動車の見え	同 令
エンジニアサイエンス講座	
11 振動と波動の工学	共立出版
わかり易い土木講義	
10 コンクリート工学 (1) 施工	朝倉社
11 同 (2) 設計	同
土木工学大系	
4 自然環境論 (Ⅱ)	同 令
10 材料工学 (Ⅱ)	同 令
11 同 (Ⅲ)	同 令
15 設計論	同 令

29 国土保全	同 令
飲製工学講座	
11 鉄鋼調査科学	朝倉書店
日本機械学会講義論文集	
№810～1 №810～6	日本機械学会
新体系土木工学	
24 舟の尻の水理	技報堂出版令
27 石膏系材料	同 令
29 フレッシュコンクリート硬化コンクリート	同 令
78 ダムの施工	同 令
68 鉄道	同 令
79 岸砂と海岸保全施設	同 令
81 港湾計画	同 令
90 土木施工 計画と施工技術	同 令
On the Stability of Poiseuille Pipe Flow	ランケン技術貿易
Forth Road Bridge	
London and Beccles	
日本語版 More Basic Computer Games	アスキー出版
ic Master vol 1. 2	A.M. I.
Vladimir Panc	
Theories of Elastic Plates	Noordhoff International Publishing

産 業

クリフ・タンディ	
ランドスケープハンドブック	豊島出版会令
奥田久	
内陸水路の歴史地理学的研究	大明堂
川崎敏	
世界の産物誌	今古書院
尾新川正平	
農業地域形成の研究	二宮書店
坂倉勝高	
地場産業の地域	大明堂

芸 術

書の本 1. 書とは何か	筑摩書房
岡 2. 書のかき方	同
マック式短距離トレーニング	講談社
金子明友	
体操競技 男子編	同
伊保清次	
剣道	同
松平康隆	
バレーボール	同
見谷昌福	
スキー世界の技術	同
ジャック・ニクラウス	
ニクラウスのゴルフ	同
銭存潤	
中国古代書籍史	法政大学出版局
岸松榮花	
2 シカゴ美術館	小学館
16 フリー・アール・ネー	同
日本古寺美術全集	
17 鎌倉と東國の古寺	宝英社
新装日本絵巻物全変別巻	
1 弘法大師伝絵巻 融通急巻端起絵 塊	
基寺建立修行端起	角川書店令
古寺巡礼余良	
1 法隆寺	淡文社令
2 円成寺	同 令
3 法華寺	同 令

4 新薬師寺	同 令
5 般若寺	同 令
6 元興寺	同 令

語 学

ランダムハウス英和大辞典 上・下 パーソナル版	小学館
新華辞典	商務印書館
チェンバース新ユニバーサル英英辞典	日本洋書販売
新英和大辞典	研究社
試験によくわかるドイツ語の基本問題と解答	三修社
研究社新英和大辞典	研究社
英語語法大辞典	大修館書店
同 続	同
新明解国語辞典	三省堂
大原信一	
漢字のうづりかわり	東方書店令
一海知彦	
漢語の知識	岩波書店令
大杉邦三	
会議英語	大修館書店
直塚玲子	
欧米人が沈黙するとき	大修館
P. ミルワード	
英語の語法診断	南雲堂
朝比賀昇	
美しい英文の書き方	大学書林
トラリアン	
英語論文の書き方	研究社
山村三郎	
英語表現の実際	同
桶村松雄	
新選英和辞典	小学館
水守亀之助編	
類語文例辞典	柏書房
小田切秀雄編	
現代文筆宝鑑	同
中村保男	
英和翻訳表現辞典 1. 2	研究社
橋本島太郎編	
世界の中の日本文学	弘文堂
木島始	
日本語のなかの日本語	晶文社
千葉栄一	
言語学のためのしみ	大修館書店
藤井章雄	
米英俗語辞典	朝日出版社
Thurston Womack	
英文正誤活用辞典	晃竹出版
松本安弘	
英語べからず小事典	同
池田四郎次郎	
故事動語大辞典	日本図書センター
新村出編	
広辞苑	岩波出版
諸橋峻次 他	
新選和辞典	大修館書店
日本国大辞典	
とふ〜ひたん	小学館
ひち〜みん	同
高辺千秋	
FEN ニュース聞き取り80分	金星堂
English Writing Book 1. Words	初等英語研究社

同 2. Sentences		同		E. E. ハリディ					
文 学				国説シェクスピアの世界		学研研究社		12 能 狂言	
		森山小郎		近松の天皇41		一書房		13 御伽草子	
		近野成生		今日のアメリカ作家群像		研究社		14 芭蕉 蕪村	
有島武郎全集 5, 6		筑摩書房		渡辺利雄				15 井原西鶴	
上林睦全集 19		同 社		フランクリンとアメリカ文学		同		16 近松門左衛門	
島崎藤村研究 2~4		双文社		小野協一				17 上田秋成	
ミルトン				スペイン内戦をめぐる		同		18 京伝 一九 春水	
楽聖の喪失		大修館書店		大河内康彦				19 曲亭馬琴	
大岡信 小倉百人一首		世界文化社		老舎 断魂糖 骆驼祥子抄		東方書店		20 歌舞伎十八番	
朝日新聞社編				関良一 穂ロー葉考証と試論		有精堂		ロマノロラン全集	
季寄せ一草木花(春上・下)		朝日新聞社		吉野俊彦				29 戦時の日記	
同 (夏上・下)		同 社		青春の愚情と挫折		P H P 研究所		30 日記 V 戦争の日記 N	
同 (秋上・下)		同 社		胡因瑤 魏晉南北朝文学史		文芸出版社		35 書簡 II したいフィーア	
同 (冬)		同 社		国説日本の古典				1901~1932	
松久久表				1 古事記		集英社		新潮現代文学	
東海文学紀行		中部日本教育文化会		2 風葉集		同 社		13 恋い轉人の肖像 火の鳥	
関良一 道遙 魏外考証と試論		有精堂		4 古今集 新古今集		同 社		16 石版東京図絵 青梅雨	
Aピラス				5 竹取物語 伊勢物語		同 社		24 快楽	
悪魔の辞典 対訳篇 評註篇		こじあん書房		6 蜻蛉日記 枕草子		同 社		27 真空地帯 囃い絵	
同 続		同 社		7 源氏物語		同 社		40 浮き燈台 流れ藻	
山室静 春の夜の夢		皆美社		9 平家物語		同 社		47 楳山勘秀 笛吹川	
志見久美				10 方丈記 徒然草		同 社		77 花壇み 雪舞	
みだれ髪全訳		桜楓社		11 太平記		同 社		二葉亭四迷全集 1~9	
								新栄堂書店	
								J. クーパー. ボウイス	
								死闘 英国人の心	
								紀 崎 聞草堂筆記 上・下	
								上海古書出版	

読んでみませんか (新着図書から)

- 019 読書連弾 渡部昇一・谷沢永一 大修館
本読み、本集めに情熱を傾ける二人が、少年の日の感激から古木屋とのつきあい方までに及ぶ本の魅力談。
- 801 言語学のたのしみ 大修館
ラーメンの命名論、宇宙人との対話、地名人名考など、軽妙な筆で言語等の愉しさと興行きを語る 17章。
- 396 昭和の陸軍 寺田近雄 日本放送出版協会
戦後35年、忘れ去られた兵営生活の詳細を写真入り

- で。入宮、服装、内務班、各個教練、中隊教練など。
- 511.3 土のはなし I II III 土質工学会 技報堂出版 KK
君の足もとにある土を見つめ直してみませんか？モグラの穴はなぜつづれぬ、鳴り砂の秘密、花粉の化石等。
- 911.3 季寄せ草木花(四季別7巻) 朝日新聞社
散策のおともにこの「花の歳時記」をどうぞ。ワイドカラー判。植物の正しい名と秀れた俳句の解説。

今年度の顔振れ

I 図書委員会

館長	池田 豊
副館長	小磯 武文 (工業化学科)
委員	亀井 宣男 (一般教科)
"	佐藤 新太郎 (機械工学科)
"	鴨沢 勅郎 (電気工学科)
(視聴覚専任)	山崎 数彦 (電気工学科)
委員	高橋 邦雄 (土木工学科)
"	事務部長

委員	庶務課長
"	図書係長

II 図書係

係長	加藤 勇
職員	大谷 敦子 (整理担当)
"	大久保 フミ (閲覧担当)
"	山野辺 憲子 (受入担当)

III 学生図書委員会

学年	学科	M	E	C	土
1		面川 寿彦 永井 修	鈴木 康寛	萩野 京子 狩成 子	安藤 博実
2		高橋 健	河野 繁	高石 和浩 橋崎 文彦	今志 敏郎 泉 敏一
3		副委員長 鈴木 健吾	穴戸 博	渡部 豊	清水 幸三
4		加藤 信浩	委員長 菊地 義昭 木村 義	但野 春高	橋本 岩夫
5		山下 俊夫	大和田 修	内田 修司	安部 重雄

会議録など一当館の歩み

56. 4. 8 第1回図書委員会

今年度の努力目標と館内模様替え案

4. 16 第1回学生図書委員会

館内模様替え案と学生用雑誌の処理

4. 22 視聴覚小委員会

視聴覚機器・教室の使用心得案

5. 9 ビブリア号外を発行

「閲覧室と書庫の模様替え完了に際して」

5. 22 第2回図書委員会

ビブリアNo.43 編集発行の案

学生の雑誌アンケートに対する処理案

5. 22 第2回学生図書委員会

書架整理当番と新刊紹介の案

5. 29 第3回学生図書委員会

積極的活動の具体的方法について

(書庫の整理, 図書案内, 連絡ノート)